

「公立大学法人長岡造形大学第3期中期目標（案）」に関するパブリックコメントの実施結果

1 概要

(1) 実施期間

令和7年5月30日（金曜日）から6月13日（金曜日）まで

(2) 実施の周知

- ・市ホームページ及び市政だより（6月号）への掲載
- ・アオーレ長岡東棟1階総合窓口及び各支所地域振興・市民生活課への備付け

(3) 意見提出者

6人

(4) 意見件数

11件

2 寄せられたご意見と市の考え

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え
1	第1 教育研究及び社会連携に関する目標 4 高大接続に関する目標	長岡市内在住や高校出身の入学者を増やす取組を進めていただけることはとてもうれしいです。 これからも地元の高校生に向けて様々な情報を届けていただきたいと思います。	地元の高校生に確実に情報が届くよう、今後も長岡造形大学と連携しながら取り組んでまいります。
2	-	起業を目指すような項目を入れて頂けるといいのかなと思います。 就職以外の選択肢としての起業をもっと学生の中から意識できるようなカリキュラムがあれば長岡市に残る学生も増えると考えます。	「3 学生の支援に関する目標」において、ご意見を参考に反映します。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え
3	第1 教育研究及び社会連携に関する目標 2 社会連携に関する目標	県外出身者が多いので、大学卒業後に市外に移住することはしょうがないと思う。 大学生生活で長岡市で暮らせてよかったという思いを持つような経験をすることで、就職のために長岡市を離れてしまっても、ふるさと納税や旅行、デジタル村民など、それぞれに合う形で長岡市に関わることができることが良いのではないかと考える。	地域社会との結びつきを念頭において、今後の中期計画等の策定において参考にさせていただきます。
4	第1 教育研究及び社会連携に関する目標 4 高大接続に関する目標	長岡造形大学を第一志望に考えている長岡市内の高校に在籍する高校生は一定数いるが、受験の難易度の高さなどから、不合格になってしまったり、志望校を変えてしまったりするケースがある。また、高校卒業後は地元で貢献したいという思いを持つ高校生もいる。地域枠受験を充実させることで、地元への思いが強い学生が増えるのではないかと考える。	個別の取組については、今後の中期計画等の策定において参考にさせていただきます。
5	第1 教育研究及び社会連携に関する目標 1 教育及び研究に関する目標	最新のデジタル技術を活用した、教育プログラムの導入・充実	個別の取組については、今後の中期計画等の策定において参考にさせていただきます。
6	第1 教育研究及び社会連携に関する目標 1 教育及び研究に関する目標 2 社会連携に関する目標	大学内の研究等のシーズから社会課題にアプローチするだけでなく、今見えている社会課題からどんな手法をもって現実的な解決へ導けるのか、社会実装の観点で市民目線によりそったフィールドワークを意識した取組を期待します。	個別の取組については、今後の中期計画等の策定において参考にさせていただきます。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え
7	前文、全体	(前文について) 第2期中期目標（以下前期目標）と比較し、大学の開学以来の歩みに触れる部分が削除されており、いきなり足下の状況に触れ始めていて唐突感が強い。そこから詳細（NaDeC構想など）に触れているので何が言いたいのかわからない文となっている。開学以来の歩みや、開学の理念（＝開学以前からの流れ）も示さないと、何のための大学が、足下と行く先がどうだから今後どうするという話にはならないと思う。 全体的にもほとんど現状ベースの話となっており、長い目のものも「入学者減少」「安定的な経営」と、経営側の都合ばかりで教育機関として何がやりたいのか全く見えてこない。「地方創生などのためにデザイン教育をやる」という主旨の部分は「長岡造形大学」という大学名の単なる言い換えであり、全く意味をなしていないとすら言える。 これなら前期目標の前文そのままの方が遥かに良いのではないか。こうした前提、前文を要とする目標では経営や行財政の都合で教育がおざなりになることが強く懸念され、米百俵の精神に反し、非・長岡的である。 再考を強く求める。 (全体について) そのうえで、前文に合わせて見直すべき点は見直していただきたい。前文をしっかりさせればまともには出るし、理念も確たるものになると思うが、矛盾があってはいけない。	開学以来のあゆみや建学の理念の重要性については、十分承知しております。前文において、ご意見を参考に反映します。 現在の社会状況を踏まえ、第3期中期目標期間においては地方大学の置かれる状況がさらに厳しくなることが予想され、そのことに立ち向かう意欲が重要と考えております。必要な教育を行うために安定した大学経営が必要なものと考えております。 前文は中期目標を定めるうえでの前提・現状認識を示す箇所としており、これを踏まえた上で、教育についても「第1教育研究及び社会連携に関する目標」の「1 教育及び研究に関する目標」でしっかり取組むことをお示しします。 なお、前文を含む第3期中期目標（案）の構成につきましても、市の附属機関である長岡市公立大学法人評価委員からご意見をいただきながら策定を進めております。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え
8	第1教育研究及び社会連携に関する目標 1 教育及び研究に関する目標	「広く世界で活躍することができる人材を養成する」とあるが、そうした人材を育てた上で、第1の2、「長岡への定住を促す」のは、長岡から世界へのアクセスが残念ながらまだ遠い現状において矛盾である。地域人材から世界的人材まで幅広く育成できるよう、そうした表現を追加すべきである。	情報インフラが整備された現代社会において、広く世界で活躍することができる“能力”と長岡への“定住”は、矛盾するものではないと考えております。 長岡で暮らしながらリモートワークで首都圏企業に勤める「NAGAOKA WORKER」のように、住む場所にとらわれない働き方も広がってきております。
9	第1教育研究及び社会連携に関する目標 2 社会連携に関する目標	長岡の定住促進に触れていることは高く評価できる。しかし仕事や雇用の充実を考えれば、大学としてできることはまだあるはずである。仕事や雇用の創出、卒業生が長岡で暮らし続けられる場の醸成をも社会と連携してより力強く取り組むべきである。そうした観点を第1の2に盛り込んでほしい。	個別の取組については、今後の中期計画等の策定において参考にさせていただきます。
10	第1教育研究及び社会連携に関する目標 4 高大接続に関する目標	高大連携について盛り込まれていることは高く評価できる。少なくとも長岡の高校を出た身として、造形大はたいへん影が薄かった。10年たち今はどうか分からないが、もっともっと高校生と交流させないともったいない。長高、大手からのキャリアでも、農工商…のあらゆる分野でも、デザイン＝設計・問題の解決の感覚は必須である。長岡の各高校生が少なくとも年2回、造形大と関わるべきである。できればそうした数値目標を盛り込んでほしい。	個別の取組、数値目標については、今後の中期計画等の策定において参考にさせていただきます。
11	-	卒業展の内容は長岡、いや新潟においても屈指のデザインイベントとなっている。しかし訪れる人が少なく、活かされていない。 地域との交流の面でそうしたイベントの長期化やオープン化についても触れてほしい。 卒展は市をあげて街を使って1週間以上開催すべきである。	個別の取組については、今後の中期計画等の策定において参考にさせていただきます。